

総合的な学習の時間指導演

目指す基本目標
異文化理解
コミュニケーション能力・表現力
世界に向けた共生の心の育成

日 時 平成20年9月12日(金)

学校名 美幌町立美幌小学校

児 童 5年1組 男子15名 女子12名 計27名

授業者 相馬 一之

トピック	異文化コミュニケーション
------	--------------

1 単元名

「 つながろう世界の人たちと 」

2 単元の設定について

美幌の地域では、毎年2学期が始まってからすぐに、関東地域の日本語学校に通う様々な国の学生を招き、小・中・高校との交流を行っている。もともとある地域としての活動を生かそうと「国際理解に関する学習」として位置付けた。そして、この学習で子どもたちが自ら交流し、異なる文化について身近に触れることで、お互いの違いがわかり、世界に目を向けられるのではないかと考えた。

(1) 児童の実態

帰りの会などでは、自分の考えを発表する場を設けることで、全体の場でも発表できるようになってきている。ところが反対に聞いている側は、聞いている態度は見せるが、話の内容を理解しようとしている児童は半数程度であるため、まだまだ指導が必要である。

子どもたちは、班やグループでの話し合いには、話すことや聞くことができるので、普段から班やグループでの話し合いの中では、司会決めて進めるようにしてきた。

1学期の後半に2人の台湾人がクラスに3週間ほど滞在することになった。コミュニケーションについては、以前は自ら異文化の人と接するのは、ALTだけであるため、世界の人とのコミュニケーションはできるのかが心配であった。ところが、子どもたちは言葉が通じなくとも、ジェスチャーや筆談などでコミュニケーションをとろうと積極的に関わろうとしていた。

(2) 素材の工夫

素材の工夫は2点ある。一つ目は、世界の国々から来る人たちを教室に招き、子どもたちと触れ合わせるということである。

二つ目は、小集団でのコミュニケーションである。来校される異文化の方1人に対し、児童4～5名が交流し、一人ひとりがコミュニケーションできる学習形態を作る。児童は異文化の方との距離が近くなり、いろいろな表現でコミュニケーションをとることになる。

(3) 学習の形態・方法

導入の段階において、異なる文化を持つ人について疑問に思うことを身近な物事から考えさせる。そこから興味のある国を調べ、ポスターを作成し発表する。そこで新たな課題を見つけたことや深めたいことなどを国際交流で聞いたり、筆談やジェスチャーで伝え合ったりするなどのコミュニケーションをとり、身近な物事の違いや共通点について考えさせたい。

(4) 期待する子どもの意識・行動

異文化の方と近くで話をするという経験はなかなかあるものではない。そのためこの学習を通して、衣・食・住や言葉が違うものの、私たちと同じ人類であるということを感じてほしい。また、自分の思いや考えが相手に「伝わった」喜びや相手の話が「わかった」という感覚からもっと「話をしたい」という気持ちを持ち、積極的に交流しようとする心を育てたい。

3 国際理解教育に関わる視点

仮説1に関わって

身近な物事に目を向け、地球的視点で見つめ調べることによって、自分と世界とのつながりを感じ、様々な問題を自分との関わりとして捉えることができるだろう。

自分の生活のスタイルと異文化を持つ人たちの生活のスタイルとはどんな違いや共通点があるのだろうか。そのような疑問を持たせ、日常生活という身近な素材から世界へ目を向けて、関わらせたい。また、交流から得たことを生かし、身近なものから世界とのつながりを意識させていきたい。

仮説2に関わって

言葉の学び（外国語活動）を通し、互いを尊重する態度を育てることで、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもが育つだろう。

5年生では、外国語活動としてALTとのコミュニケーションを含めた取り組みを行っている。ALTや友だちと関わり合う場面を多く設定し、何とか伝えようとしたり理解しようとしたりしてきた。

今回は、初めて会う異なる文化を持つ方に対し、その国の言葉を事前に調べ、初めの挨拶や自己紹介で通じたことがきっかけになることで、進んでコミュニケーションをするのではないだろうか。

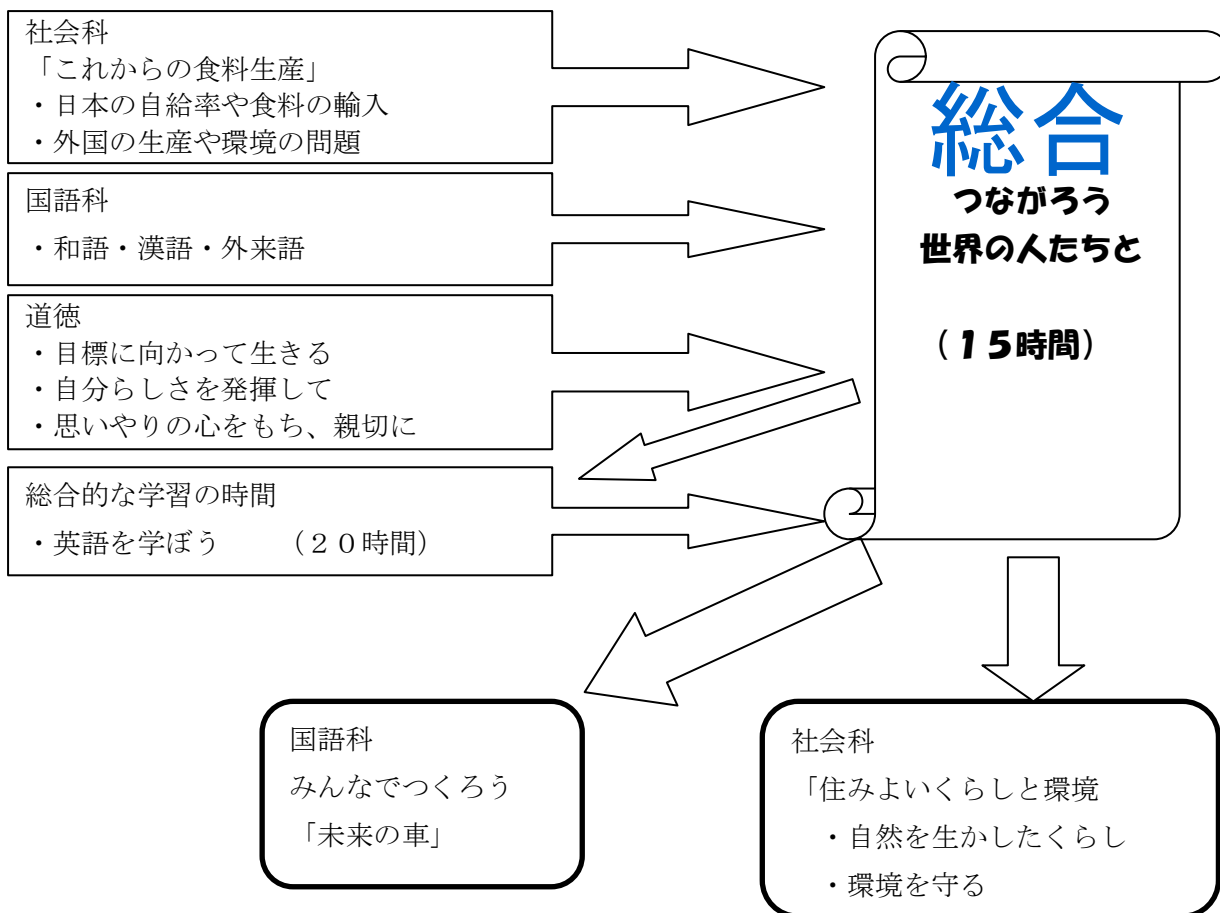
4 単元の目標

総合的な学習の時間としての目標	観点	国際理解としての目標（網走管内目標）
・来校する方の中から自分の興味・関心のある国を選ぶ。	A	異文化理解への意欲
・調べ活動により、異なる文化の違いや共通点を見つけようとする。 ・交流をすることで、新たな考えを見つけたり共感したりすることができる。	C	世界に向けた共生の心の育成
・調べ活動から、わからないことや深めたいことを交流から聞くことができる。 ・日本の文化を教えることができる。	B	コミュニケーション能力・表現力

「総合的な学習の時間の観点」

A	B	C
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	自分との関わり

5 他教科・領域との関連



6 単元の指導計画

時間	主な学習計画
1	オリエンテーション (国際交流について)
2	調べたい国についてのグループ作り 調べ活動の計画
3～5	調べ活動
6～8	調べた国についてのポスター作り
9	中間交流会
10	課題設定 (交流する国の人とどのように関わるのか) ・さらに深めたい ・日本の文化を伝えたい など
11～12	国際交流へ向けての準備
13	国際交流 (本時)
14～15	交流からわかったことや感じたことをまとめ発表する。(学習全体のまとめ)

7 本時の学習

(1) 観点別の目標と評価

	身に付けたい力	国際理解に関わっての目標ならびに評価
思考・判断・表現 (考える)	コミュニケーション能力 共生の心	○交流を通して、自分のことを伝え、相手の話をしっかり聞くことができる。 ○自ら進んでコミュニケーションを図ろうと取り組むことができる。
関心・意欲・態度 (行動する)	課題設定の能力 問題解決能力	○相手の話から、新しい考えや発見をすることができる。

(2) 本時の活動

過程	児童への活動	教師の支援	形態	留意点
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 交流者への挨拶 本時の学習についての確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> いっぱい交流をして、仲良くなるう！ </div>	<ul style="list-style-type: none"> 交流場所の掲示 	一斉	
ひろげる	<ul style="list-style-type: none"> 交流者を交流場所に案内する。 交流をしよう。 自己紹介をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 準備してきたことで交流する。 知りたい } ジェスチャーで伝えてみよう 深めたい } 筆談や絵で聞いてみよう 教えたい } その地域の言葉で話してみよう </div> <ul style="list-style-type: none"> わかったことや気が付いたことは、ワークシートにメモをとる。 交流の方の質問に答える。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に交流する方々をそれぞれの場所に案内させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> はっきりと相手に伝わるように表現しよう！ </div> <ul style="list-style-type: none"> 事前に準備したものを用意させる。 	グループ	積極的に交流できない児童については、順番を決めさせることで交流に臨ませる。 ワークシートの活用 ・内容のメモ ・感じたこと
つなげる	<ul style="list-style-type: none"> お礼の挨拶をする。 感想を発表する。 挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 児童は、交流する方々を最初の場所に案内させる。 気付きや感想に対する評価 	一斉	

